

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国:2017年12月9日公表ほか USDA Crop Production

10月の農業気象概況(2017年11月9日公表)

10月中は、作物の成熟の遅れとたびたびの大雨により、中西部でトウモロコシの収穫にかなりの遅れが生じた。10月29日の時点で米国全体でトウモロコシの収穫は54%が終了していたが、最近5年間の平均は72%となっている。ダイズの収穫は、10月29日の時点で83%が終了している。

東部の大半の地域でも、10月前半にハリケーン・ネイトの名残の低気圧がメキシコ湾岸地域中央部から米国北東部へ通り抜けたのを始めとして、広範囲に雨が降った。その後には、10月24日から30日にかけて暴風雨が連続して訪れ、米国北東部に豪雨をもたらし、早魃の懸念を一掃した。

これと対照的に、南部の中央部並びに大平原地域の南部及び北部といったいくつかの地域では10月の降水量がごく少なかった。乾燥した天候のおかげで農作業は促進されたものの、冬作コムギ及び被覆作物(カバークロップ)の発芽と生育に要する水分が不足した。サウスダコタ州では、早魃や急激な低温といった多様な要因によって、

10月29日の時点で冬作コムギの53%が著しい不良から不良とされたが、米国全体では12%がそのように評価されている。

一方、米国西部の南半分の地域では、10月には乾燥した天候が続いた。10月8日から9日にかけてカリフォルニア州北部で強風が吹き荒れたときには、山火事の損害によっていくつかの地域社会(community)が焼失した。中間報告によれば、43名が死亡、9,000件近くの建造物及び約25万エーカー(10万1,000ha)の山林植生(vegetation)が被害を受けた。

それ以外の地域としては、太平洋沿岸北西部からハイプレーンズ地域の北部にかけて、低温に加えて降水量が多かった。北西部の降雨は例年より早い雪となった地域もあったが、このおかげで高温で乾燥した夏の後の早魃の恐れがなくなり、土壌湿度が上昇した。

季節外れの気温という現象は、北西部の中心部(平年並みを2.2℃下回る)及びコーンベルト地帯東部から北東部の地域(平年並みを2.2℃から4.4℃上回る)に限られている。実際に、10月としては過去最高記録の高温が北東部のいくつかの地域で記録されている。南西部の砂漠地域でも、天候

は温暖であった。

表1 米国の作物別作付面積、収穫面積、単収及び生産量

作物名	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017
オーストリアン ウィンターピー	15,380	11,740	11,330	6,480	1.91	0.97	21,640	6,300
乾燥食用インゲンマメ	672,590	854,500	630,750	822,730	2.06	1.95	1,302,350	1,601,730
ヒヨコマメ2/ 大粒	131,650	244,350	129,500	184,540	1.91		247,070	
小粒	85,590	172,240	84,660	119,870	1.88		159,170	
乾燥食用エンドウ	46,050	72,120	44,840	64,670	1.96		87,910	
レンズマメ	559,280	466,610	538,160	449,770	2.34	1.55	1,258,130	697,040
リンクルドシードピー	377,580	448,800	367,460	411,570	1.57	0.82	575,380	338,240
	(未詳)		(未詳)		(未詳)		19,910	

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。]

(未詳) データが入手できていない。

(X) 適用できない。

1/ 作付面積はすべての用途のものを含む。

2/ 四捨五入により、合計の数値に誤差が生じる可能性がある。

表2 米国の乾燥食用エンドウ州別収穫面積、単収及び生産量

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017
アイダホ州	11,331	9,712	56.0	38.1	635,029	370,131
モンタナ州	234,717	202,342	43.7	23.5	10,260,259	4,762,720
ネブラスカ州	21,043	22,662	30.0	29.1	632,307	660,430
ノースダコタ州	220,553	171,991	50.4	37.0	11,124,806	6,362,087
オレゴン州	2,347	3,642	58.4	49.1	136,985	178,715
サウスダコタ州	12,140	15,378	35.9	31.4	435,449	482,622
ワシントン州	36,017	23,876	53.8	47.1	1,937,747	1,124,002
米国全体	538,150	449,605	46.8	31.0	25,162,583	13,940,708

[リンクルドシードピー及びオーストリアンウィンターピーを除く]

表3 米国のレンズマメ州別収穫面積、単収及び生産量

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017
アイダホ州	14,973	14,163	35	20	520,724	285,763
モンタナ州	204,366	263,046	33	16	6,688,673	4,127,691
ノースダコタ州	120,192	107,242	28	16	3,421,901	1,682,828
ワシントン州	27,923	27,114	31	25	876,340	668,595
米国全体	367,455	411,565	31	16	11,507,638	6,764,877

表4 米国のオーストリアンウインターピー州別収穫面積、単収及び生産量

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017
アイダホ州	6,880	1,619	40	20	277,599	32,659
モンタナ州	2,833	3,642	29	11	82,554	39,009
オレゴン州	1,619	1,214	45	45	72,575	54,431
米国全体	11,331	6,475	38	19	432,727	126,099

カナダ：2017年12月18日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

カナダの主要畑作物生産見通し

本報告書は、11月に公表されたカナダ農業食料省の2017/18作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。トウモロコシ及びダイズについては、作物年度は9月1日から8月31日までである。

乾燥エンドウ

2017/18作物年度のカナダの生産量は、前年度に比べて15%減少して410万tとなる見込みである。これは、サスカチュワン州で単収が低く、特にアルバータ州及びマニ

トバ州で収穫面積が減少したことによるものである。黄色乾燥エンドウの生産量は360万tとなる見込みであり、また緑色乾燥エンドウの生産量は40万tとなる見込みであって、残りはその他の各種銘柄に少量ずつ分散している。供給量の減少率は12%に留まり、440万tとなったが、これは期初在庫量が多かったからである。輸出量は、インドの輸入量が減少していることから、240万tとなる見込みである。インドへの輸出量の減少は、中国への輸出量が過去最高記録に達する見込みであることで部分的に埋め合わせされるとみられている。輸出に回せる供給量が多く残っていることから、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。供給量が多く、2017/18作物年度の期末在庫量が過去最高記録に達する見込みであることから、平均価格は2016/17作物年

度に比べて値下がりする見込みである。

11月中旬にサスカチュワン州の黄色乾燥エンドウの生産者価格は50ドル/t、緑色乾燥エンドウの生産者価格は20ドル/t、それぞれ値下がりした。これは、主にインド政府が乾燥エンドウの輸入に50%の関税を課したことによるものである。現時点までのところ、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を23ドル/t以上上回る水準を維持している。前作物年度は、緑色乾燥エンドウの価格が、黄色乾燥エンドウの価格を6ドル/t下回った。

米国の2017/18作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、前年度に比べて減少して48万6,000haとなる見込みである。これは主としてノースダコタ州で作付面積の減少が見込まれていることによるものである。単収が平年並みを下回ると見込まれているので、米国農務省の予測によれば米国の乾燥エンドウ生産量は45%減少して70万tとなる見込みである。この結果、中国のようなカナダ産乾燥エンドウの輸出市場における米国産乾燥エンドウとの競争は、より小さな規模となる見込みである。

レンズマメ

2017/18作物年度の実生産量は21%減少して260万tとなる見込みであるが、これは収穫面積の減少によるものである。大粒緑色レンズマメの実生産量は前年度と同様50万tとなる見込みであり、赤色レンズマメの実生産量は前年度に比べて減少して約180万tと

なる見込みである。その他のレンズマメ全品種の実生産量は、前年度に比べて増加して20万tをわずかに上回る値となる見込みである。

期初在庫量が多かったことから、総供給量の減少率は11%に留まる見込みである。輸出量は減少して210万tとなる見込みである。現時点では、トルコ、EU諸国及びインドが輸出市場の上位を占めている。等級分布が平均水準を上回るとの思惑から、輸入量及び国内利用量は前年度に比べて減少する見込みである。輸出量が減少することから、期末在庫量は増加する見込みである。レンズマメ全品種の平均価格は2016/17作物年度の水準を下回る見込みである。これは、等級分布の面で第1等級の品物の比率が高いにもかかわらず、世界的に需要が弱まっていること及び期末在庫量が増加したことによるものである。

11月中旬にサスカチュワン州の第1等級の大粒緑色レンズマメの実生産者価格は、前月に比べて約80カナダドル/t値下がりしており、第1等級の赤色レンズマメの価格は70カナダドル/t以上値下がりした。これは主として輸出需要が弱いことによるものである。カナダ産レンズマメの品質は平均水準を上回ると推定されている。2017/18作物年度の第1等級及び第2等級のカナダ産レンズマメの供給量は、前年度に比べて増加した。2016/17作物年度の第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、第1等級の赤色レンズマメの価格を420ドル/t上回ったが、2016/17作物年度には赤色レンズマメ

の価格を590ドル/t上回って過去最高記録となった。

米国の2017/18作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2016/17作物年度に比べて19%増加して44万5,000haとなる見込みであるが、これはモンタナ州で作付面積が増加したことによるものである。単収が平年並みを下回る見込みであることから、2017/18作物年度の米国のレンズマメ生産量は、米国農務省の予測によれば、30万t余りまで減少して、2016/17作物年度の水準の2分の1程度となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2017/18作物年度の生産量は大幅に増加して32万2,000tとなるものと見込まれている。このうち9万2,000tがホワイト・ビーンであり、23万1,000tがカラード・ビーンである。オンタリオ州の生産量が増加したが、これは主としてホワイト・ビーンの作付面積が増加し、単収が高かったことによるものである。マニトバ州で生産量が増加したのは、カラード・ビーンの作付面積が増加し、単収が向上したことによるものである。アルバータ州では、カラード・ビーンの作付面積が増加したことにより、生産量が増加した。

期初在庫量は少なかったが、生産量及び輸入量が増加したことで、供給量は大幅に増加する見込みである。輸出量は前年に比べてわずかに減少する見込みである。米国及びEU諸国が、カナダ産乾燥インゲンの

輸出市場の上位を占めており、メキシコ及び日本へも、より少ない量が輸出されている。期末在庫量は大幅に増加する見込みである。カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は、北米全体からの供給量が増加したことにより、急激に低下するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、増加して60万7,000haとなる見込みであるが、これは主としてノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。2017/18作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、米国農務省の予測によれば、2016/17作物年度に比べて15%増加して120万tとなる見込みであり、これは作付面積の増加によるものである。増加率が大きい銘柄は、ブラック・ビーン及びピントー・ビーンである。米国産乾燥インゲンマメの輸出市場は、引き続きカナダ、EU諸国及びメキシコである。

ヒヨコマメ

2017/18作物年度の実生産量は増加して9万2,000tとなる見込みであるが、これは、単収はかなり低下したものの、収穫面積が増加したことによるものである。品質は平年並みであって、前年度に比べて大幅に向上している。供給量は増加する見込みであるが、これは期初在庫量が減少したことを輸入量の増加が埋め合わせて余りあったことによる。輸出量は2016/17作物年度に比べて大幅に増加する見込みである。米国及

びパキスタンが輸出市場の上位を占めている。期末在庫量は引き続きごく少ない見込みである。世界的にもカナダにおいても在庫量が減少することから、ヒヨコマメ全品種について平均価格が4年連続で上昇する見込みである。

2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過

去最高記録の24万3,000haとなる見込みであって、2016/17作物年度の2倍近い値となる。単収が低下し、収穫を断念する割合が高まるものとする、2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、2015/16作物年度に比べて大幅に増加して、過去最高記録の40万tとなる見込みである。

表5 カナダの豆類作付面積・収穫面積、単収その他

	乾燥エンドウマメ [a]: 2017年12月18日			レンズマメ [a]: 2017年12月18日			乾燥インゲンマメ [a]: 2017年12月18日			ヒヨコマメ [a]: 2017年12月18日		
	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]
作付面積 (1,000ha)	1,489	1,715	1,656	1,633	2,372	1,783	108	115	135	50	62	68
収穫面積 (1,000ha)	1,470	1,686	1,642	1,630	2,323	1,774	107	113	131	50	44	68
単収 (t/ha)	2.18	2.87	2.5	1.56	1.4	1.44	2.31	2.07	2.45	1.8	1.86	1.35
生産量 (1,000t)	3,201	4,836	4,112	2,541	3,248	2,559	249	234	322	90	82	92
輸入量 (1,000t) [b]	15	32	10	16	98	65	81	91	110	14	27	45
総供給量 (1,000t)	3,900	5,042	4,423	2,922	3,420	3,029	365	340	435	234	129	142
輸出量 (1,000t) [b]	2,647	3,944	2,400	2,145	2,455	2,100	324	337	330	152	108	130
国内総利用量 (1,000t) [c]	1,079	798	823	704	560	364	26	0	30	62	16	7
期末在庫量 (1,000t)	174	300	1,200	73	405	565	15	3	75	20	5	5
在庫量/利用量 (%)	5	6	37	3	13	23	4	1	21	9	4	4
平均価格 (\$/t) (d)	365	300	230-260	965	575	500-530	775	885	710-740	815	1,000	1,200-1,230

[a] 作物年度(8月から7月)。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。ただし、2016/17作物年度の単収及び生産量はカナダ統計局。2017/18作物年度の作付面積はカナダ統計局。

資料: カナダ統計局及び業界団体。

オーストラリア：2017年12月5日公表 ABARES（オーストラリア農業資源 経済局）農業生産報告書

概観

オーストラリアの冬作物の総生産量の見通しは、春の間にわずかに下方修正されたが、地域によって大きな差異がある。春の始めの時点で作物の生育状況にかなりのばらつきがあった上に、春を通じて生育条件が地域によりまちまちであった。

オーストラリア全体の生産見通しに影響を及ぼすような、州レベルでの生産見通しの変更がみられたのは、西オーストラリア州及びニューサウスウェールズ州の2州であった。西オーストラリア州では、すべての生産地域で春の生育条件が良好であったことから生産見通しは大幅に引き上げられた。北部及び中央東部の生産地域では、春の始めには全般的に作物の生育状況が非常に良くなかったが、春の後半に良好な生育条件に恵まれたことで、不作をまぬがれた。これと対照的にニューサウスウェールズ州の大部分の生産地域では、春を通じて生育条件に恵まれず、生産見通しが落ち込んだ。大部分の地域で単収（単位面積当たり収穫量）が平年並みを下回った。

クイーンズランド州でも春の間に生産見通しが大幅に落ち込んだが、オーストラリア全体に及ぼす影響の面では、西オーストラリア州及びニューサウスウェールズ州の

影響の方がはるかに大きい。

ヴィクトリア州及び南オーストラリア州では、春の間にいくつかの生産地域について生産見通しに変更されたが、州レベルでの見通しの変更は比較的わずかであった。

多くの生産地域で収穫作業が進行中であるが、11月には降雨によって収穫が遅れた。最新の降水予測（オーストラリア気象庁2017年11月30日公表）によれば、南東部の生産地域では、12月の降水量は平年並みを上回る見込みである。

2017/18年度の冬作総生産量は、2016/17年度に比べて41%減少となる見込みであるが、これは主に2016/17年度には例外的に高かった平均単収が大幅に低下する見込みであることによるものである。この結果、2017年9月付けの『オーストラリア農業生産報告書』で公表されたABARESの予測値が4%下方修正される。この予測値は、2015/16年度までの10年間の平均を2%下回っている。

コムギ、オオムギ及びナタネの主要3作物の生産量は、2017/18年度には減少する見込みである。コムギは42%減少して2,030万t、オオムギは40%減少して800万t、ナタネは31%減少して290万tとなる見込みである。その他の作物としては、ヒヨコマメの生産量が48%減少して100万t、オートムギ（エンバク）の生産量が44%減少して110万tとなる見込みである。

表6 オーストラリアの豆類の作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2015-16	2016-17 s	2017-18 f	2015-16	2016-17 s	2017-18 f
ヒヨコマメ	677	1,069	1,144	875	2,004	1,045
ファバビーン (ソラマメ)	220	233	212	301	484	270
フィールドピー	238	230	222	205	415	273
レンズマメ	225	306	348	182	830	479
ルーピン	534	515	520	652	1,031	546

f ABARESによる予測。

s ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12ヵ月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁); オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表7 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2017-18 f	478	382	55	60	575	565	30	30	6	8	0	0
2016-17 s	480	792	16	28	550	1,150	19	27	4	7	0	0
2015-16	398	489	13	3	252	371	11	7	4	4	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	317	439	31	37	280	475	18	20	4	5	0	0
フィールドピー												
2017-18 f	52	52	60	75	0	0	90	104	20	42	0	0
2016-17 s	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2015-16	48	73	54	21	0	0	114	82	22	29	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	50	68	51	64	0	0	110	140	34	43	0	0
レンズマメ												
2017-18 f	22	29	145	200	0	0	180	250	0	0	0	0
2016-17 s	5	10	140	350	0	0	160	470	0	0	0	0
2015-16	1	3	107	40	0	0	115	137	1	1	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	2	3	98	132	0	0	111	203	1	1	0	0
ルーピン												
2017-18 f	75	75	35	40	0	0	60	66	350	365	0	0
2016-17 s	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2015-16	95	111	46	31	0	0	62	53	331	457	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	63	73	34	35	0	0	63	76	306	480	0	0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

資料: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表8 オーストラリアの豆類の供給及び利用状況

作物名	2011-12 (1,000t)	2011-12 (1,000t)	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 s (1,000t)
生産量						
ルーピン	982	459	626	549	652	1,031
フィールドピー	342	320	342	290	205	415
ヒヨコマメ	673	813	629	555	875	2,004
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	416	290	286	306	398	540
フィールドピー	130	145	175	124	72	140
ヒヨコマメ	93	1	0	1	1	1
輸出量						
ルーピン	565	169	340	243	254	491
フィールドピー	215	177	169	168	134	276
ヒヨコマメ	581	853	629	663	1,145	2,260

a：生産量に輸入量を加えた値から輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注：生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。オーストラリア統計局の農業データ収集の範囲の変更により、2014/15年度までは推定生産額5,000ドル以上の生産者（EVAO）を対象として生産量を集計していたが、2015/16年度以降は40,000ドル以上のEVAOを対象としている。

資料：ABARES（オーストラリア農業経済及び農業科学庁）、オーストラリア統計局、Pulse Australia。

表9 豆類価格の推移

作物名	2016 第1四半期 (A\$/t)	2016 第2四半期 (A\$/t)	2016 第3四半期 (A\$/t)	2016 第4四半期 (A\$/t)	2017 第1四半期 (A\$/t)	2017 第3四半期 (A\$/t)	2017 第2四半期 (A\$/t)
国内価格: ルーピン(クィナナ調べ)	298	270	278	272	234	267	296
国内価格: ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	993	1,139	1,108	776	827	1,034	869
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	555	602	413	355	343	362	318
輸出価格: ヒヨコマメ b	904	1,055	1,272	968	942	1,023	1,013
輸出価格: フィールドピー b	590	646	634	506	444	458	417

a：単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たりの輸出価格当たり平均価格（F.O.B.本船渡し）である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税（GST）を除外している。

資料：ABARES（オーストラリア農業経済及び農業科学庁）、オーストラリア統計局、CME グループ、Farm Weekly、国際穀物審議会、The Land、The Weekly Times、米国農務省。